

# 工業部会通信

(発行) かながわ経済新聞合同会社  
252-0239  
相模原市中央区中央3-12-3  
商工会館本館1階  
※プリントしてご自由にお読みください。

かながわ経済新聞  
KANAKAKEI

## TRYプロジェクト 富士通沼津工場を視察

### 開発者のDNA体感

工業部会TRYプロジェクト(渡邊将文委員長)は9月11日、5月の緊急事態宣言の解除後、初の視察会「富士通沼津工場研修会」を開催した。



視察に参加した工業部会メンバー

当日は17名が参加。視察した同工場は、1976年8月に、メインフレームの生産拠点として設立され、現在はサーバーのほか、ストレージの品質評価やシステムソフトウェアの開発を手掛けて



富士通コンピュータの歴史に触れた

また、富士通グループの技術者のための研修・教育拠点として「沼津塾」と呼ばれるプロジェクトリーダーの研修施設としての役割を担っている。工場内には、富士通コンピュータの生みの親である故・池田敏雄事務取締役の功績を称えた「池田記念室」が設置されており、59年に生産を始めた富士通コンピュータ事業の発展に大きく貢献した「リレー式コンピュータFACOM」が展示されている。

### アド・ソアー ホビー関連事業が コロナ禍でも好調

開発支援業、アド・ソアーの相模R&Dセンター(緑区西橋本)が手掛けるホビー関連事業が好調だ。機械設計や開発プロセス業務などを受託する同社が数年前に新事業として始めたもので、大手玩具メーカーから、誰もが知るプラモデルの設計業務を受注。コロナ禍にあっても底堅く、同事業の売上高は前年比3割以上で推移しているという。

(かながわサイエンスパーク)内に本社を置くベンチャー企業。技術派遣も手掛けている。全国に7拠点あり、県内では本社と相模原のほか、平塚市内に「湘南開発センター」を擁する。「開発支援業」というだけに、ものづくりの広範囲をカバー。相模原のR&Dセンターでは、治具設計や構造・機構設計を受託、客先に常駐することもある。

そんな同社のホビー関連事業は、設計のノウハウを活用して始めた。具体的にはプラモデルの全体図からパーツ設計まで、同センターに常駐する専門エンジニアが担当。「プラモデルといっても、メーカーからかなり細かい精度が求められる」と(前田高嗣センター長)としている。景気に左右されないホビー市場は底堅く、安定成長を続けているという。

### Withコロナ時代

### 中小の経営戦略は

### 28日オンラインセミナー

工業部会GETプロジェクト(河野崇委員長)は、10月28日の午後6時半〜同8時まで、「中小製造業におけるwithコロナ時代の経営戦略と初めてのオンライン活用セミナー」を開催する。

新型コロナウイルスの影響により、ニューノーマルの浸透やテレワークが増加するなど、社会の激変が起きている中、中小企業の経営戦略はどう変わるべきなのかを人気講師が解説する。工業部会会員限定の企画。講師には、2600社以上の中小企業へのコンサルティングと2350

回以上の講演実績がある、竹内幸次氏(スプラム社長、中小企業診断士)を招く。具体的な内容としては▽新型コロナウイルスの現状▽世界の感染状況▽新型コロナウイルスの経済インパクト▽ポストコロナ時代の経営認識と成長戦略▽ポストコロナの市場ニーズに対応▽テレワークの導入、オンライン名刺交換▽Zoomを使った顧客とのオンライン面談、商談など、となっている。

## 家電の コンサルタントがいます。

# Nojima

関東甲信越に  
180店舗のネットワーク

### 副部長コラム 「工業よもやま話」

経営者にとって重要な仕事のひとつに「人育て」があります。

まず人育てにかかる年数ですが、私の経験ですと「最低10年」はかかると思います。経営者の発言の意味や思いを理解してもらおうと、手を緩めてはいけません。人育てで気を付けたいのは、経営者自身が発言する内容に一貫性がないと、社員

### 「人育て」には10年

自身を理解できないということ。経営者に対して、社員が「分かりません」と言うのは勇気が必要です。ですから、会社の製品も大切に扱ってあげない

から、なるべく分かりやすく具体的に話すことが大切です。ダラダラではなく、明解に伝える努力を惜しんではいけません。少し話は飛びますが、

一方、トイレ清掃も社員が持ち回りでやっています。トイレは会社で一番大切な所です。なぜなら、みんなが使うからです。次に使用する人のことを考えず、汚いまま

切に扱うはずがないからです。傷があり汚いクルマで納品にやってくるら、お客さんどう思うでしょう? きっとこの会社の品質は本物ではないと感じるはず

トイレルでも、仕事でも大切になるのです。実際、こうした考えが社全体に伝わるまで、20年かかりました。何度も心が重要で話し続けることが重要です。経営者が心を開いて話さない

と通じるものも通じません。コロナ禍で経営者も社員も大変ですが、その中でしっかりと意思疎通を図り一体感を持つことが、乗り切るための重要な要素だと思います。(湘南デザインCEO/相模原商工会議所工業部会副部長)